

まきづめ

まき瓜なんて さいたニと存わつた

それが自分とある存んで それが存ゆふに

たふ存んで 他人にたつた

ここ四年か五年のうちには 是の「あやゆふ」が

まき瓜のうらうだ

瓜とあとのた 都合のわるい存在だ

時折 まき瓜にたれた人がケレブと 印つて

くれさ

それで存分存のた 人たかまきづめ 存

づめと言つていゝのが不思議でさか思つて

いた

あゝ人は 子供の時 存子かゆり子術を

したそうた お存り存かつたうらうだ

たうた 今も存まづゆで食つていた

まきと い瓜いと 言つていゝ

私もいたい

東国は ハン加里をコートがゆたか下

少しづつ 自分で出まわることとあわしたはい

背のむくい私 ーしとわがたとどか存

服のかやとあるハシガトを 思いきり

背のたしとわかや

やとわかや終ると その成ゆにうれしく有る

もうひとつ もうひとつと 一つトおやに

おやに 満足とてねん

和国に入つたが ときが女の ちやゆがた

おかしい へお和国にひつかかつたがねと

思つたが そうでるん

ゆがを見たと 赤くはよてい

スリヤ人をゆくといふい

番物のややの ときがやつて来た

せやたしと ちやゆに力かかるといふ

失敗はくりかえさるん

ちやゆは目かすれば いたちが存く存ると

思つてい

2022
3/19